|  |  |
| --- | --- |
|  | **第２章 機能を考慮した医療提供施設の整備目標** |

**第１節　がん対策**

【現状と課題】

|  |  |
| --- | --- |
| 現　　状  １　がんの患者数等  　○　当医療圏の平成29（2017）年のがん罹患状況は、男性は前立腺(18.4％)が最も多く、次いで肺 (15.2％)、胃（14.2％）の順で、女性は乳房(23.1%)が最も多く、次いで大腸(17.9％)、肺(10.4％)の順となっています。（表2－1－1）  ○　当医療圏のがんによる死亡数は死因順位の第1位で、令和元（2019）年は死亡総数の29.8％を占めています。部位別にみると、男性は、肺（24.8％）が最も多く、次いで胃(16.1％)、膵臓(9.8％)の順で、女性は大腸(14.8%)、肺(14.4％)、膵臓(13.1%)の順に多くなっています。（表1－3－6、表2－1－2）  ２　がん予防・早期発見の推進  ○　がんの発症には喫煙や食事、運動といった生活習慣や感染症と関連のあるものがあります。地域住民ががんについて正しい知識を持ち、主体的に生活習慣の改善に努めることができるよう、市町、保健所及び病院等で喫煙対策や予防啓発が行われています。  ○　がんの早期発見のため、がん検診の受診が重要です。令和元（2019）年度の圏域の推計受診率は肺がん検診20.2％、胃がん検診11.6％、大腸がん検診18.2％、子宮がん検診10.5％、乳がん検診10.5％となっています。（表2－1－3）  ○　令和元（2019）年度のがん検診の精検受診率は、肺がん88.0％、胃がん90.1％、大腸がん75.8％、子宮がん1.7％、乳がん91.7％となっています。発見率は肺がん0.07％、胃がん0.16％、大腸がん0.25％、子宮がん0.01％、乳がん0.31％となっています。（表2－1－3）  ○　保健所では肝炎ウイルス陽性者の早期発見とウイルス性肝炎患者の重症化予防のために、無料の肝炎ウイルス検査を実施しています。また、管内市町は健康増進法に基づき肝炎ウイルス検診を実施しています。  ○　令和2（2020）年に、がん登録事業に、がん患者の届出があった医療機関は病院が11施設、診療所が1施設です。  ○　平成28（2016）年1月から「がん登録等の推進に関する法律」が施行され、全国がん登録が開始されました。  ３　医療提供体制  ○　がん患者の受療動向は、圏域内完結率は76.7％であり、残りは名古屋医療圏が大部分です。（表2－1－4）  また、他の医療圏からのがん患者の受入率は59.5％で、多くの患者を受け入れています。(表2－1－5)  ○　胃、大腸、乳腺、肺、肝臓、子宮がんの年間に実施した手術件数が10件以上の「専門的医療を提供する病院」が5施設あり、公立陶生病院、藤田医大病院、愛知医大病院、旭労災病院、あいち肝胆膵ホスピタルです。（表2－1－6）  ○　手術療法、放射線療法、薬物療法など集学的治療が複数の病院において行われています。(表2－1－7)  　　また、外来にて薬物療法を受けられる病院が7施設あります。（表2－1－8）  ○　公立陶生病院、藤田医大病院、愛知医大病院では、内視鏡下手術用医療ロボットダヴィンチによる高度専門医療を実施しており、他医療圏からの患者も多くみられる状況です。  ○　現在、がん薬物療法専門医やがん化学療法看護認定  　看護師、がん性疼痛看護認定看護師、がん専門薬剤師を配置している病院は少なく、また、愛知県医療機能情報公表システム（令和2（2020）年度調査）によると放射線治療において専任の放射線専門医が配置されている病院は3病院です。  ４　地域がん診療連携拠点病院等  ○　当医療圏域では３つの拠点病院があります。「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に基づき、公立陶生病院、藤田医大病院、愛知医大病院が指定されています。  ○　肺がん、胃がん、肝臓がん、大腸がん、乳がんについて、クリティカルパスを用いた地域連携診療計画による病病連携又は病診連携が行なわれています。  ○　拠点病院では、がん相談支援センターが設置され、拠点病院の受診の有無に関わらず、がん患者や家族の相談支援を行っています。  ○　拠点病院では、県民へのがん医療情報の提供や診療所などの医療機関を対象に緩和ケア・早期診断などに関する研修会や症例検討会などを実施しています。  ５　緩和ケア等の推進  ○　３つの拠点病院では質の高い緩和ケアを提供するために、多種の専門職が加わった緩和ケアチームを設置しています。  ○　緩和ケア病棟を有する施設は平成29（2017）年4月1日現在、愛知国際病院、藤田医大病院の2施設です。  緩和ケアを行っている病院は12施設あり、医療用麻薬によるがん疼痛治療やがんに伴う精神症状のケアを行っています。(表2－1－8)  ○　在宅療養者へ緩和ケアを実施する管内の麻薬取り扱い施設数は直近3年間では大きな変化はありません。（表2－1－9） | 課　　題   * 発がんリスクの低減を図るため、たば   こ対策や食生活など、地域・職域・学校が連携し、継続して効果的な予防に取り組む必要があります。  ○　がん検診の精度管理を充実し、関係機関が連携して、がん検診の受診率とがん精密検査受診率の向上に取り組む必要があります。  ○　適切ながん対策を推進するために、  がん発生や治療の実態把握が重要であ  り、全国がん登録へのがん患者情報の登録を推進する必要があります。  ○　安心かつ安全ながん医療を受けられるよう､専門職種の更なる充実が望まれます。  ○　患者数の少ない小児・ＡＹＡ世代のがん、希少がん、難治性がん等も含め、個々の患者の状況や、就労と治療の両立等、ライフステージにおける多様なニーズに対応するため、情報提供や相談支援体制の充実が望まれます。  ○　緩和ケアを実施する施設数の増加とと  もに、住み慣れた地域で生活の質を重視  した緩和医療が受けられるよう今後も多職種連携による在宅療養支援を強化していく必要があります。  ○　入院・外来・在宅における切れ目のない緩和ケアの実施のため、ケアに関わる人材の確保・育成が望まれます。 |

【今後の方策】

○　がんの発症と喫煙が及ぼす影響や生活習慣や感染症との関連について継続して周知していきます。

○　市町等で実施しているがん検診の受診率・精密検診受診率を上げ、がんの早期発見に努めていきます。

○　がん診療連携拠点病院等を中心に、地域連携クリティカルパスの整備を図り、質の高い医療の提供と連携体制の充実に努めていきます。

○　地域で行われているがん治療に関する医療情報を、わかりやすく提供していきます。

○　地域における緩和ケアの体制整備を図っていきます。

○　小児・AYA世代のがん、希少がん、難治性がん等に関する情報の提供に努めます。

○　就労等の社会生活を継続しながら外来でがん治療や緩和ケアを受けられる連携体制や相談支援体制を整備していきます。

表2－1－1 全国がん登録による尾張東部医療圏域の部位別がん罹患数（平成29年）（人）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区　分 | 総数 | 胃 | 肺 | 大腸 | 肝臓 | 前立腺 | 乳房 | 子宮 |
| 男　性 | 1,838 | 261 | 280 | 271 | 77 | 338 | 2 | - |
| 女　性 | 1,292 | 95 | 135 | 231 | 33 | - | 299 | 80 |
| 計 | 3,130 | 356 | 415 | 502 | 110 | 338 | 301 | 80 |

　資料：愛知県のがん統計

表2－1－2　尾張東部医療圏の悪性新生物による部位別死亡数（令和元年）　　　　　　(人)

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 区　分 | 総数 | 胃 | 気管・肺 | 大腸 | 肝臓 | 前立腺 | 乳房 | 子宮 | 膵臓 |
| 男　性 | 702 | 113 | 174 | 55 | 40 | 27 | 0 | - | 69 |
| 女　性 | 465 | 47 | 67 | 69 | 20 | - | 41 | 21 | 61 |
| 計 | 1,167 | 160 | 241 | 124 | 60 | 27 | 41 | 21 | 130 |

資料：令和元（2019）年愛知県衛生年報（愛知県保健医療局）

表2－1－3　令和元年度がん検診結果（県及び尾張東部医療圏内市町）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | 肺 | 胃 | 大腸 | 子宮 | 乳房 |
| 受診率％ | 圏　域　内 | 20.2 | 11.6 | 18.2 | 10.5 | 10.5 |
| 愛　知　県 | 17.3 | 8.2 | 15.4 | 8.9 | 8.5 |
| 要精検率  ％ | 圏　域　内 | 2.0 | 6.4 | 8.7 | 1.7 | 6.0 |
| 愛　知　県  (名古屋市を除く) | 1.6 | 7.4 | 8.3 | 2.1 | 6.4 |
| 精検受診率  ％ | 圏　域　内 | 88.0 | 90.1 | 75.8 | 1.7 | 91.7 |
| 愛　知　県  (名古屋市を除く) | 81.5 | 82.5 | 67.4 | 72.3 | 88.2 |
| 発見率  ％ | 圏　域　内 | 0.07 | 0.16 | 0.25 | 0.01 | 0.31 |
| 愛　知　県  (名古屋市を除く) | 0.05 | 0.19 | 0.23 | 0.01 | 0.33 |

資料：令和元年度各がん検診の結果報告（愛知県保健医療局健康対策課　令和3年3月発行）

表2－1－4　尾張東部医療圏のがん患者の医療圏別入院数（平成25年度）　　　　　　　　　（人／日）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 医　療　機　関　所　在　地 | | | | | | | | | | | | | |
| 区分 | 名古屋 | 海部 | 尾張中部 | 尾張東部 | 尾張西部 | 尾張北部 | 知多半島 | 西三北部 | 西三南部西 | 西三南部東 | 東三北部 | 東三南部 | 県外等 | 計 |
| 住所地が尾張東部医療圏の患者 | 74 | ＊ | 0 | 244 | ＊ | ＊ | ＊ | ＊ | ＊ | ＊ | 0 | ＊ | ＊ | 318 |

資料：愛知県地域医療構想（愛知県保健医療局）　　　　　　　　　　　 　　　　医療圏完結率：76.7％

　　　　注）レセプト情報等活用の際の制約から、10人/日未満となる数値は公表できないため＊と表示。

表2－1－5 尾張東部医療圏に入院しているがん患者状況（平成25年度）　　　　　　　　　（人／日）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 患　　　者　　　住　　　所　　　地 | | | | | | | | | | | | | |
| 区分 | 名古屋 | 海部 | 尾張中部 | 尾張  東部 | 尾張西部 | 尾張北部 | 知多半島 | 西三北部 | 西三南部西 | 西三  南部東 | 東三北部 | 東三南部 | 県外等 | 計 |
| 尾張東部医療圏内の医療機関の入院患者 | 186 | ＊ | ＊ | 244 | ＊ | 31 | 54 | 30 | 46 | 12 | ＊ | ＊ | ＊ | 603 |

資料：愛知県地域医療構想（愛知県保健医療局）　　　　　　　　　　 　　　　　他医療圏受入率：59.5％

注）レセプト情報等活用の際の制約から、10人/日未満となる数値は公表できないため＊と表示。

表2－1－6　尾張東部医療圏におけるがん診療連携拠点病院、専門的医療を提供する病院の現況

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| がん診療連携拠点病院等 | 専　門　的　医　療　を　提　供　す　る　病　院 | | | | | |
| 胃 | 大　腸 | 乳　腺 | 肺 | 肝臓 | 子　宮 |
| 公立陶生病院  藤田医科大学病院  愛知医大病院 | 公立陶生病院  旭労災病院  藤田医大病院  愛知医大病院 | 公立陶生病院  旭労災病院  藤田医大病院  愛知医大病院  あいち肝胆膵ホスピタル | 公立陶生病院  旭労災病院  藤田医大病院  愛知医大病院 | 公立陶生病院  藤田医大病院  愛知医大病院 | 藤田医大病院  愛知医大病院 | 公立陶生病院  藤田医大病院  愛知医大病院 |

　資料：愛知県医療機能情報公表システム（令和2年度調査）

専門的医療を提供する病院：令和2年度度調査において年間手術10件以上実施した病院です。

表2－1－7　尾張東部医療圏の手術療法・放射線療法・薬物療法（化学療法）実施病院数

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 胃 | 大腸 | 乳腺 | 肺 | 肝臓 | 子宮 |
| 手術療法 | 4 | 5 | 4 | 3 | 2 | 3 |
| 放射線療法 | 3 |  | 3 | 2 |  | 3 |
| 薬物療法（化学療法） | 7 | 8 | 7 | 5 | 6 | 4 |

資料：愛知県医療機能情報公表システム（令和2年度調査）

※：手術療法は、令和元年度に10件以上手術を行った病院数を表しています。

表2－1－8 尾張東部医療圏の外来における薬物療法（化学療法）・緩和ケア実施病院数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 外来における薬物療法（化学療法） | 緩和ケア | |
| 医療用麻薬によるがん疼痛治療 | がんに伴う精神症 状 の ケ ア |
| 7 | 12 | 6 |

資料：愛知県医療機能情報公表システム（令和2年度調査）

表2－1－9　尾張東部医療圏の麻薬取り扱い施設数推移(年度末)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和２年度 |
| 病　　　院 | 17 | 17 | 17 |
| 診　療　所 | 107 | 108 | 113 |
| 麻薬小売業者 | 187 | 196 | 202 |

資料：保健所調査がん　医療連携体系図　　　　　　　　　　　　　具体的な医療機関名は別表に記載してあります

訪問看護等

がん検診

（地域・職域）

（女性の受診に配慮）

　受　　　診

（女性の受診に配慮）

処方せん

検診医療機関

＜管内市町がん検診委託機関数＞

（Ｈ29年度）

肺がん（集団5、個別138）

胃がん（集団5、個別96）

大腸がん（集団6、個別139）

乳がん（集団3、個別27）

子宮がん（集団5、個別23）

早期発見・診断

診療所・歯科診療所

病院

紹　介

精密検査実施

紹　介

入院医療

（手術・化学・放射線治療、緩和ケア）

紹　介

支援

地域がん診療連携拠点病院

（がん診療拠点病院を含む）

がん医療を

提供する病院

支援

紹介

都道府県がん診療連携拠点病院

必要に応じ、緩和

ケア病棟へ入院

退　院

緩和ケア病棟を

有する医療機関

外来医療

（化学療法・放射線療法・緩和ケア）

通　院

がん医療を

提供する病院

がん診療連携拠

点病院等と連携

する病院・診療所

がん診療連携

拠点病院等

緊急時等病状に

応じた入院

通　院

在宅医療

療養指導・在宅医療等

院外処方・訪問薬剤管理指導等

がん診療連携拠点病院等と

連携する病院・診療所

かかりつけ薬局

訪問看護ステーション等

【がん対策の体系図の説明】

○　早期発見・診断

　・　県民は有症状時には病院、診療所、歯科診療所への受診、あるいは検診医療機関等においてがん検診を受けます。

　・　県民は、必要に応じて専門的医療を行う病院等に受診します。

　・　女性が検診やがんを含めた身体の悩みで、受診しやすい環境づくりを進めていきます。

* 入院医療

　・　「都道府県がん診療連携拠点病院」である県がんセンターでは、本県のがん医療をリードし、

　　　地域がん診療連携拠点病院等の医療従事者に対する研修を実施してがんの専門的医療従事者の育成に

　　努めています。

・　「地域がん診療連携拠点病院」等では、手術療法・放射線療法・薬物療法による集学的治療及び緩和

ケア等、専門的ながん医療を提供しています。

　・　必要に応じて緩和ケア病棟を有する医療機関への入院が実施されます。

○　外来医療

・　退院後は病状や年齢・就労状況等に応じて外来で治療及び経過観察が行われます。

・　必要に応じて外来緩和ケアが実施されます。

・　事業所の人事労務担当者・産業医等とがん診療連携拠点病院等及び連携する医療機関は、従業員ががんになっても働きながら外来治療を行えるよう、従業員の同意のもとがん治療に関する情報の共有を進めていきます。

○　在宅医療

・　退院後は病状や年齢等に応じて、在宅で治療及び経過観察が行われます。

　・　かかりつけ医の指示のもとで、かかりつけ薬局による服薬指導や麻薬の管理などが行われます。

・　必要に応じて在宅訪問診療・訪問看護を通じた緩和ケアが実施されます。

・　必要に応じてかかりつけ歯科医による口腔ケア・口腔管理が実施されます。

　【用語の解説】

○　全国がん登録

　　がんと診断された人のデータが、都道府県に設置された「がん登録室」を通じて集められ、国のデータベースで一元管理される新しい仕組みで、平成28年１月に始まりました。

* がん診療連携拠点病院

全国どこに住んでいても均しく高度ながん医療を受けることができるよう、厚生労働大臣が指定する病

院であり、緩和ケアチーム、相談支援センターなどの設置等が義務づけられています。都道府県に概ね１

か所指定される都道府県がん診療連携拠点病院と２次医療圏に１か所程度指定される地域がん診療連携拠

点病院があります。

* がん診療拠点病院

本県のがん医療の充実強化を図るため、厚生労働大臣が指定する病院以外で、国の指定要件を満たす高

　度ながん医療を提供する病院を愛知県独自に指定した病院です。

* 薬物療法（化学療法）

薬物療法とは、薬を使う治療のことで、がんの場合は抗がん剤、ホルモン剤等を使う化学療法を指します。

* 緩和ケア

単なる延命治療ではなく、患者の身体的及び精神的な苦痛を緩和するとともに、生活面でのケア、家族

　への精神的ケアなどを行う、患者の「生」への質を重視した医療をいいます。

　　また、こうした機能を持つ専門施設が緩和ケア病棟、又はホスピスといわれているものです。

* 地域連携クリティカルパス

地域内で各医療機関が共有する、各患者に対する治療開始から終了までの全体的な計画のことです。

○　ＡＹＡ世代

思春期・若年世代（Adolescent and Young Adult）を指します。AYA世代に発症するがんは、診療体制が定まっておらず、小児と成人領域の狭間で患者が適切な治療が受けられない等の課題があります。